

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福社会	代表者	村城 正	法人・事業所の特徴	尊厳のある対応＝利用者本位。 日常生活におけるリハビリ。落ち着いた居場所づくり（設備面含む）。 行政及び地域との関係性づくり（会議・企画への参加、地域貢献活動）。
事業所名	あすならホーム桜井	管理者	森下 靖代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	5人	人	1人	1人	人	1人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	初年度のため、不掲載	初年度のため、不掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を深めるには、まずイベントに参加し、面識を持つことからすべき。 ・焦らずに、コロナ禍が収束してから取り組みべき。 ・その他のサービス機関との会議は、オンラインでの参加を活用すべき。 	事業所自己評価の「6.連携・協働」「7.運営」項目では、コロナ禍収束後、オンライン活用など安全面を考慮しつつ、サービス機関及び各種機関のイベントや会議に参加したり、活動することで、関係性づくりを進める。
B. 事業所のしつらえ・環境	初年度のため、不掲載	初年度のため、不掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・拘束しない環境は好ましいが、施設は道路に面したり、溝があったりするので、安全を考慮すべき。もし、事故が発生すると施設の信用が失墜しかねない。 ・事故があった場合、世間からは「ほったらかし」と思われる。 	引き続き、ケアプランに基づく自立支援と安全確保を両立させるため、①行動先の事前把握、②リスク箇所の把握と必要な個別対応、③地域関係者への周知と理解を得る、④行方不明時の対応訓練等をおこない、職員対応の質を向上させる。
C. 事業所と地域のかかわり	初年度のため、不掲載	初年度のため、不掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ、何の施設かは知られていないので、看板等の広報ツールを活用すべき。 ・相談では意見を受け止め、解決できない場合は、その先を紹介するクッション的な役割をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板をはじめ、多様な広報ツールを使用して、認知度を高めます。 ・ホーム桜井でさまざまな相談が受けられる場所になるため、完結できない場合でも次の段階へ進めるように紹介やアドバイスができる対応を目指す。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	初年度のため、不掲載	初年度のため、不掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外の関りについて、本業がある中、職員数の限りがあるので、関わる方は優先順位をつけて対応すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本業を優先する中、社会福祉法人の役割として、独居支援のためにランチや熱中症予防の見守り、買物支援などコロナ禍の状況を見据え、試みる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	初年度のため、不掲載	初年度のため、不掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の心配な方に対する事例検討が行われているかの項目があるということは、その役割を求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における利用者及び住民の方に仕事（地域貢献活動）として関心を持つと同時に、運営推進会議メンバーからの情報提供もいただきながら、必要な対応を関係者と協力して取り組む。
F. 事業所の 防災・災害対策	初年度のため、不掲載	初年度のため、不掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練に参加するには、まず、自主防災会の会議に代表者が参加し、関係性をつくるべき。 ・防災の一時避難所として考えているのであれば、市の危機管理課と相談すべき。 ・施設で実施している防災訓練をきっちりするように努めるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係会議に参加させてもらうための条件を把握し、ルールに基づき、着実に関係性を築いていく。 ・一時避難所等をはじめ、災害時の役立ちの仕方について、市役所に相談し、方向性を確認する。 ・義務付けされている年2回の防災訓練の内容を高めていく。